授業科目名： 哲学・倫理学	教員の免許状取得のため の 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西巻 丈児 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校社会及び高等学校公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 中学社会：「哲学、倫理学、宗教学」 高等学校公民：「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
「学位授与の方針」との関係 本科目は、ディプロマポリシーの6つの「星槎共生スピリット」を習得することを目的とする。			
授業のテーマ及び到達目標 哲学とは一体何なのか。どのような問題を扱ってきたのか、それをどのように考えてきたのか、またどのように考えたらいいかをみずから考えるという、哲学的な思考法を身につけることができる。 また、倫理学で論じられる主要な問題をとりあげ、その問題がどのように考えられてきたのかを代表的な倫理学者の見解を踏まえながら、倫理的な諸問題を考察していき、倫理学・道徳の諸問題を自分の身近な問題として考えることができる。			
授業の概要 「自分ってなんだろう?」「よく生きるためにはどうすればよいだろう?」…、結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれらの事柄を少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実はこのような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな「哲学者」と呼ばれる人たちが、これらの問いに対する答えを提示してきた。 日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れています。この授業では「知ること」、「実践すること」を中心にしてそれぞれの哲学者・倫理学者たちが歩んできた思索の道をたどり、哲学的・倫理的な諸問題を考えていきます。			
授業計画 第1回：哲学的な問いの次元(1) -日常生活のどこにでもある哲学の諸問題- 第2回：哲学的な問いの次元(2) -<私>は何を知ることができるのか- 第3回：客観とは何か -ありのままの姿とは- 第4回：存在の追求(1) -客観と実体という考え方について- 第5回：存在の追求(2) -実体という考え方について- 第6回：存在の追求(3) -実体を問題にせざるをえない人間- 第7回：実体から主観へ -根拠の根拠としての主観1- 第8回：主観とは何か -根拠の根拠としての主観2- 第9回：意識とは何か -根拠の根拠としての主観3-			

- 第10回：存在とは何か - 根拠の根拠としての主観4 -
第11回：哲学的な問いの次元(3) - <私>は何をなすべきなのか -
第12回：自由とは何か - 自由の諸相について -
第13回：自由の諸相(1) - 意志の自由について -
第14回：自由の諸相(2) - 社会的自由について -
第15回：まとめ

定期試験

*スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる。

教科書

伊藤邦武(2012)『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』中公新書

参考文献

- (1) 熊野純彦(2006)『西洋哲学史-古代から中世へ』岩波新書
- (2) 熊野純彦(2006)『西洋哲学史-近代から現代へ』岩波新書
- (3) 檜山欽四郎(1964)『哲学概説』創文社

学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。